2022 年 1 月 21 日

2022 年 1 月バージョンアップ
支払管理 仕訳機能の仕様変更について

仕訳業務の効率化を図る目的で、仕訳機能の仕様を変更しました。
バージョンアップ以前から仕訳機能を利用している場合に、特に注意していただきたい点について説明します。

1. 支払明細の貸方指定の前提を変更

これまでは支払明細の貸方に「預金」を入力することを前提としていましたが、仕訳登録後に補助科目を再選択する手間が発生するなど非効率な点がありました。
この点を改善するため、バージョンアップ後は以下のような貸方の入力を前提とします。また、前提に沿って入力した場合、仕訳登録される借方・貸方がどのようになるかの例を示します。

前払：支払明細の貸方には「前払費用」を入力してください。

支払明細の入力

借方	貸方
保険料	前払費用

仕訳（支払データ全銀振込）からの仕訳登録例

借方	貸方
前払費用	普通預金

仕訳（前払管理表）からの仕訳登録例

借方	貸方
保険料	前払費用

当月払い：支払明細の貸方には「普通預金」「当座預金」を入力してください。

支払明細の入力

借方	貸方
消耗品費	普通預金

仕訳（支払データ全銀振込）からの仕訳登録例

借方	貸方
消耗品費	普通預金

後払：支払明細の貸方には「未払金」「買掛金」を入力してください。

支払明細の入力

借方	貸方
消耗品費	未払金

仕訳（支払管理表）からの仕訳登録例

借方	貸方
消耗品費	未払金

仕訳（支払データ全銀振込）からの仕訳登録例

借方	貸方
未払金	普通預金

2.　仕訳登録時の勘定科目の自動切替の仕様を変更

上記の貸方の入力を前提として、仕訳登録実行時に勘定科目の不要な自動切替が発生しないように仕様を変更しました。

変更点の詳細は巻末の「表 1. 仕訳登録時の動作表」に記載していますが、特に注意していただきたいのは仕訳（支払データ全銀振込）から仕訳登録する後払の取引です。以下のような仕様変更をしているため、バージョンアップ前に貸方に「普通預金」「当座預金」を指定した後払の支払明細は、「未払金」「買掛金」に変更してから仕訳登録してください。

【バージョンアップ前】

借方：すべて「前払費用」「未払金」「買掛金」に自動切替。

貸方：「普通預金」「当座預金」に自動切替。

【バージョンアップ後】

借方：支払明細で貸方に「普通預金」「当座預金」を指定している場合、
「前払費用」「未払金」「買掛金」に自動切替しない。

貸方：支払明細で貸方に「普通預金」「当座預金」を指定していない場合、
「普通預金」「当座預金」に自動切替。

3.　当月払いの費用計上仕訳の画面を変更

当月払いの費用計上の仕訳は、これまでは「仕訳（支払管理表）」および「仕訳（支払データ全銀振込）」の2画面から仕訳登録できるようになっていましたが、振込手数料の考慮や二重計上を避けるため「仕訳（支払データ全銀振込）」からのみ仕訳登録するように変更しました。

これにともない、支払方法が「振込」で、貸方に「普通預金」「当座預金」の勘定科目を指定した支払明細は「仕訳（支払管理表）」には表示されなくなります。

また「仕訳（支払データ全銀振込）」から仕訳登録した際、仕訳結果の借方の勘定科目種類が「費用」「費用（原価）」になる場合は、計上部門による金額の按分が実施されるようになります。

※　バージョンアップで新設したシステム設定「貸方の負債科目への自動切替」を「使用する」に指定すると、これまでと同様に「仕訳（支払管理表）」に貸方が「普通預金」「当座預金」の支払明細が表示されます。

4.　「預り金」の仕訳登録基準の変更

バージョンアップで当月払いの費用計上仕訳の画面が変わるため、源泉徴収税を「預り金」とする基準を変更しました。

【バージョンアップ前】

条件1：支払方法が「口座振替」「現金」「手形」のいずれか

条件2：支払方法が「振込」で「口座振込の未払計上をしない」にチェックを入れて仕訳登録

【バージョンアップ後】

条件1：支払方法が「口座振替」「現金」「手形」のいずれか

条件2：支払方法が「振込」で貸方勘定科目種類が以下のものである場合

「普通預金」「当座預金」「現金」

5.　手数料「先方負担」の支払の仕訳

「仕訳（支払データ全銀振込）」画面から手数料が先方負担の取引を仕訳登録したとき、貸方「預金」が振込額と手数料額で別々に分かれていましたが、これを集約するように仕様変更しました。

請求金額が 10,000 円で手数料が 500 円の場合の仕訳例を以下に示します。

バージョンアップ前

借方		貸方	
仕入商品	10,000 円	普通預金	9,500 円
		普通預金	500 円

バージョンアップ後

借方		貸方	
仕入商品	10,000 円	普通預金	10,000 円

※　翌月に手数料が引き落とされる場合、支払手数料の仕訳は会計ソフトで行ってください。

6.　支払予定日「未定」の振込データの集約

「振込データ」作成画面にて、支払予定日が「入力済」のものと「未定」のものにチェックを入れて「作成：全銀振込データ」を実行した場合、これまでは「入力済」と「未定」でそれぞれ別の振込として登録していましたが、これらは 1 回の振込として集約するように仕様変更しました。

表 1. 仕訳登録時の動作表

画面名	貸借	条件（複数ある場合は AND）	バージョンアップ前の動作	バージョンアップ後の動作
仕訳 （支払管理表）	借方	・なし	支払明細の借方を引き継ぐ 計上部門での按分を実施	同左
	貸方	・支払方法：振込 ・貸方勘定科目の自動切替：ON	支払明細の借方が費用（原価）なら「買掛金」、 それ以外は「未払金」をセット	同左
		・上記以外	支払明細の借方を引き継ぐ	同左
仕訳 （支払データ全銀振込）	借方	・支払明細の前払のチェック ON ・支払明細の貸方が前払費用	デフォルトの「前払費用」をセット	支払明細の貸方を引き継ぐ
		・支払明細の前払のチェック ON ・支払明細の貸方が前払費用以外	デフォルトの「前払費用」をセット	同左
		・支払明細の前払のチェック OFF ・支払明細の貸方が普通預金・当座預金	支払明細の借方が費用（原価）なら「買掛金」、 それ以外は「未払金」をセット	支払明細の借方を引き継ぐ 計上部門での按分を実施
		・支払明細の前払のチェック OFF ・支払明細の貸方が買掛金・未払金	支払明細の借方が費用（原価）なら「買掛金」、 それ以外は「未払金」をセット	支払明細の貸方を引き継ぐ
		・支払明細の前払のチェック OFF ・支払明細の貸方が普通預金・当座預金・ 買掛金・未払金以外	支払明細の借方が費用（原価）なら「買掛金」、 それ以外は「未払金」をセット	同左
	貸方	・支払明細の貸方が普通預金 ・振込元口座が普通預金	デフォルトの「普通預金」をセット	支払明細の貸方を引き継ぐ
		・支払明細の貸方が当座預金 ・振込元口座が当座預金	デフォルトの「当座預金」をセット	支払明細の貸方を引き継ぐ
		・上記以外	振込元口座が普通預金ならデフォルトの「普通預金」を、 当座預金なら「当座預金」をセット	同左
仕訳 （前払管理表）	借方	・なし	支払明細の借方を引き継ぐ	同左
	貸方	・支払明細の貸方が前払費用	デフォルトの「前払費用」をセット	支払明細の貸方を引き継ぐ
		・支払明細の貸方が前払費用以外	デフォルトの「前払費用」をセット	同左

※「デフォルト」は勘定科目種類の中で並び順が先頭のものを指します。